



自然再生に向けた取り組み

豊かな海を目指して

環境協の
環境生活
センター

⑮ 環境保全課

瀬戸内海の人々は、古くから潮干狩りや力キ養殖など、海と深く関わり、暮らしてきました。最盛期の1980年代前半には年間約40～50万トンあった漁獲量が、その後、年々減少し、現在では約16万トンとピーク時の約1/3にまで低下しています。広島県でも漁獲高の減少は問題となっており、かつてのような豊かな海の回復が喫緊の課題となっています。

このような中、環境保全課では豊かな海の再生事業を行ってきました。その中の一つ、東広島市安芸津町での間伐材魚礁設置事業を紹介いたします。当事業は、豊かな海の再生を目指し、産学官で構成される検討委員会の下、環境協が計画・魚礁の設置・モニタリング・評価の一連の業務を実施したものです。

具体的には、海と山の一体的管理を考え、未利用の間伐材で魚礁を製作して海底に設置し、その効果について、広島大学の協力を得て検討しました。その結果、間伐材魚礁は、コンクリート魚礁と比較し、メバルなどの幼魚が多く集まり、餌生物

瀬戸内海区/海面漁業漁獲量の推移

出典:漁業・養殖業生産統計年報(農林水産省)

